

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

APRIL 2018

vol.48

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

◆津島神社

所在地：津島市新明町

交 通：名鉄尾西線「津島」駅 西 約 1.1km

津島神社は、欽明天皇元（540）年を起源とする1400年以上の歴史がある神社で、明治時代の神仏分離までは「津島牛頭天王社」と呼ばれ、いまでも全国の天王信仰の総本社となっています。民衆だけでなく戦国の武将や大名からも崇拜され、楼門は豊臣秀吉、南門は豊臣秀頼の寄進、本殿は徳川家康の四男・松平忠吉の寄進とされています。

津島神社について残されている地震の被害の記録は2件あります。1件は、嘉永7（1854）年6月の安政伊賀上野地震によるもので、津島町史（昭和48年）によれば、神社の石燈籠が一基倒れ、死者もあったことが記されています。この安政伊賀上野地震は、津島祭（牛頭天神事）の時期に発生しており、「諸方より群衆せる者の旅館にあつたのが、地震の為旅人大に驚き、逃げ出したる儘再旅館に帰らなかつた」ことも併せて記されています。

もう1件は、明治24（1891）年の濃尾地震によるものです。濃尾地震では、津島神社は社務所・宝庫が倒壊、廻廊は傾き、摂社・末社13社が損傷しています。（本殿・楼門など、社殿には被害がなかったとされています。）

濃尾地震で、津島では2,700戸の住家のうち、全壊934戸、半壊1,517戸、焼失2戸となり、68名の死者と264名の負傷者が発生しています。津島町史には、当時、津島随一の繁華街であった橋詰町（天王川公園の北）の老舗の料理旅館「藤浪旅館（山平旅館）」で、地震により建物が倒壊し火災が発生した生々しい様子の記述があります。（右上）



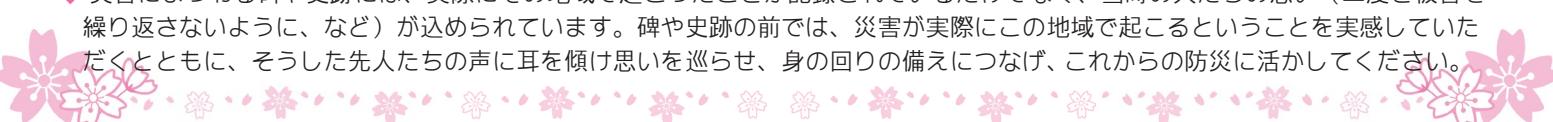
◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたたくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

「當町第一流の旅館で、而も郵便局も兼業して居た橋詰町の山平の如きは倒れると同時に火を出したるも消し止めることが容易でなく、壁が倒れ瓦が伏さり居るので、消防手もホースを入れる所がなく、適一ヶ所を破り放水せんとすれば、その穴へ火勢は一舉して押し寄せ、中々その附近に近寄ることが出来ない、又倒壊せる屋根の上に乗ることも瓦が焼けて居るので容易でない。」

また、津島では26の寺院のうち24が倒壊し、小学校は3校すべて倒れ、郡役所などの建物もほとんど倒壊したほか、余震が続いたため町民は自宅に戻ることができず、天王川の堤防の上に仮小屋を作つて雨露をしのぎ、十数日を過ごした記録も残されています。地震の1年後には、犠牲者の慰靈と復旧・復興の紀念、救済への感謝の意を込めた濃尾大地震記念碑（2014.7月号参照）が建立されました。

このほか、天正13（1586）年の天正地震や、嘉永7（1854）年11月の安政東海地震など、津島では大きな地震のたびに田畠の陥没などの地盤被害や住家の被害が発生していますが、津島神社には目立った被害の記録はありません。

津島神社の弥五郎殿社の左手に、台座と胴がずれた大きな石灯籠があります。これは、濃尾地震によってずれたもので、元に戻そうとしても戻らず、いまもそのままの姿で残されています。津島詣の折には、この石灯籠や濃尾大地震記念碑をご覧いただき、津島の地震の歴史にも思いを巡らせてみましょう。



◆ 津島神社の周辺には…

● 天王川公園（濃尾大地震記念碑）

所在地：津島市宮川町

交 通：名鉄津島線「津島」駅 南西 約 1.4km

この碑は、濃尾地震の惨害を記録するために、明治 25 年 10 月、天王川畔に南面した津島警察署前に建立されました。


碑表には、海東、海西二郡（津島を含む）における罹災の実情、堤防や学校の復旧、救済の様子などが、碑裏には、建碑資金の寄付者名が刻まれています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をご覧ください。

★ 尾張津島藤まつり

津島はかつて「藤浪の里」と呼ばれていたほど藤の名所であり、濃尾大地震記念碑のある天王川公園では、毎年 4 月下旬から 5 月上旬にかけて（平成 30 年は 4 月 27 日から 5 月 6 日）、尾張津島藤まつりが開催されます。


天王川公園には、長さ 275m、面積約 5,000 m² の藤棚があり、キュウシャクフジを中心に 12 種類 114 本の藤が植えられています。まつりの期間中は夜間ライトアップが行われ（午後 9 時まで）、昼は風にそよぐ鮮やかな藤が、夜は幻想的な藤が味わえます。また、藤棚の下を流れる疎水の水面に映る藤の花の眺めにも趣があります。会場では各種のイベントが開催されるほか、まつりの期間に合わせて津島の歴史を感じる街並み散策も開催され、たくさんの観光客や家族連れで賑わいます。

Aichi Now HP より

● ブレイクタイム ●

♪ 料理旅館「まのや」

料理旅館「まのや」は津島神社のすぐ南にあった旅館で、津島料理組合の組合長を務めるなど料理旅館として有名であり、昭和初期としては珍しい西洋料理を提供していました。

いまでも外観はそのまま残されており、当時の家具などを利用し、フレンチレストランとカフェが営業しています。

● 成信坊

所在地：津島市本町

交 通：名鉄津島線「津島」駅 西 約 600m

成信坊では、安政東海地震によって太鼓堂玄関が倒れ、また濃尾地震によって全壊しています。



4 月のあいちの花

平成 30 年 4 月のあいちの花はデルフィニウムです。デルフィニウムは、長い花穂が華やかなエラータム系、細い茎にちらちらと花を咲かせるシネンセ系が代表的で、エラータム系はヨーロッパ、シベリア、中央アジアから中国西南部における標高 1300 ~ 2300m の山岳地帯など、シネンセ系は寒地のシベリアからモンゴル、中国などが原産地です。



宿根草ですが、日本では高温多湿の夏を乗り切ることができずに枯れてしまうことが多く、園芸的には一年草として扱われています。

他の種にはあまりない鮮やかな青の花色が特徴的です。



昭和 10 年頃のまのや旅館
津島市立図書館 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡・資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報を寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。